

獣医療提供体制に関する 都道府県計画の中間とりまとめ

中間とりまとめに関するアンケート

- 獣医療法に基づき、令和12年度を目標に
各都道府県が獣医療提供体制の整備計画を策定
- 中間地点となる令和6年度までの状況を調査するため、
都道府県に対しアンケートを実施（令和6年11月～令和7年1月）

質問事項

定量評価

Q.目標人数
及び現状人数

Q.労働時間
及び労働割合

定性評価

Q.困難事例（地域）
の有無

Q.その要因

Q.現状の対応

Q.今後の対応

産業動物臨床獣医師の状況

臨床



目標と現状の人数差

(R12年度)

(R6年4月時点)

目標4,330人に対し、現状では313人（約7%）少ない

1日の労働時間

平時：8時間23分
(7時間45分～12時間)

緊急時：10時間6分
(10時間～12時間)

平時でも全国平均で約40分超勤している

1日の労働割合

※ 単純平均なので足して10にはならない

移動2.9割、診療3.5割、指導1.2割、
事務2.0割、その他1.2割

3割が移動、2割が事務作業と診療効率が低い状態

主な回答

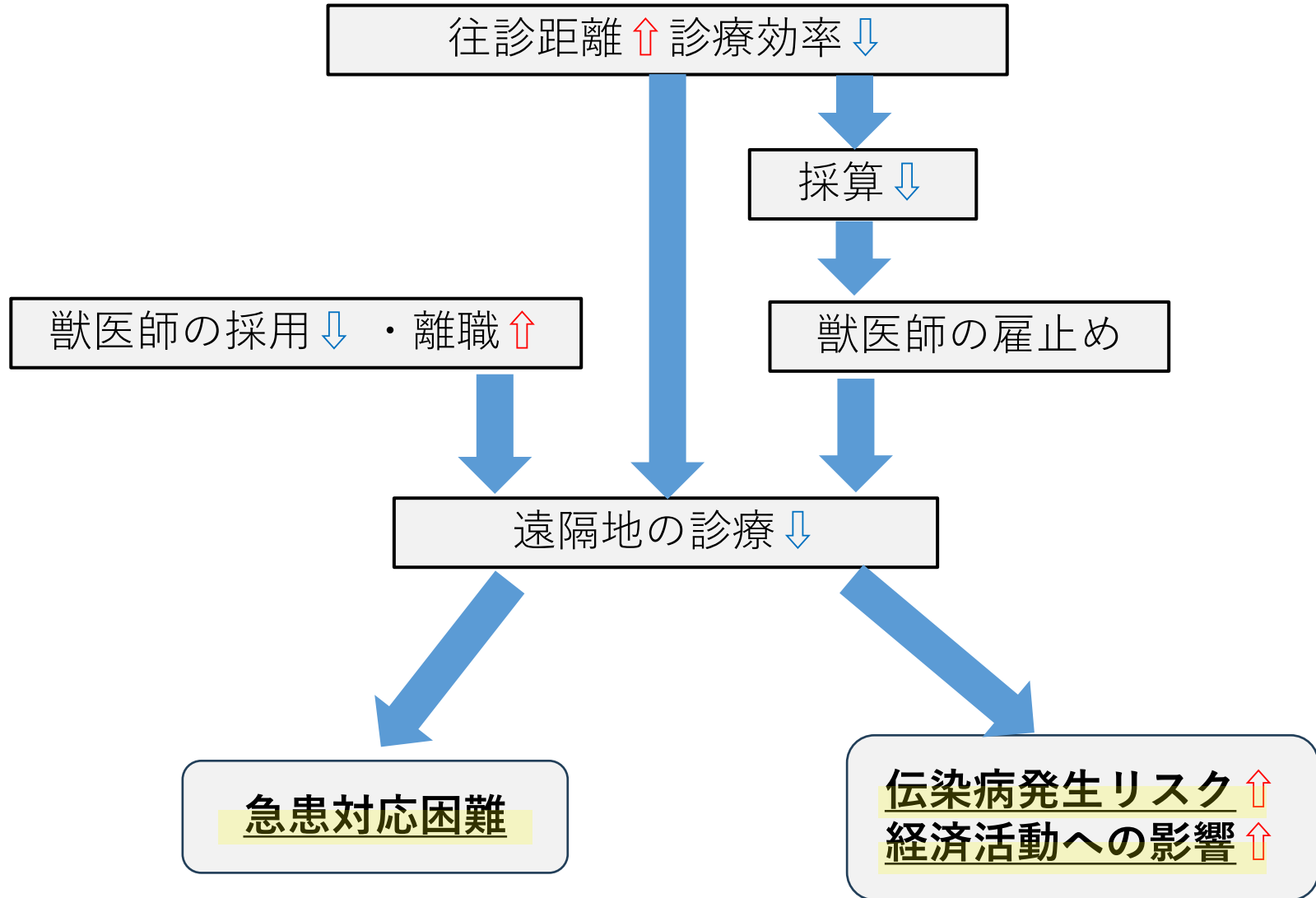
困難事例

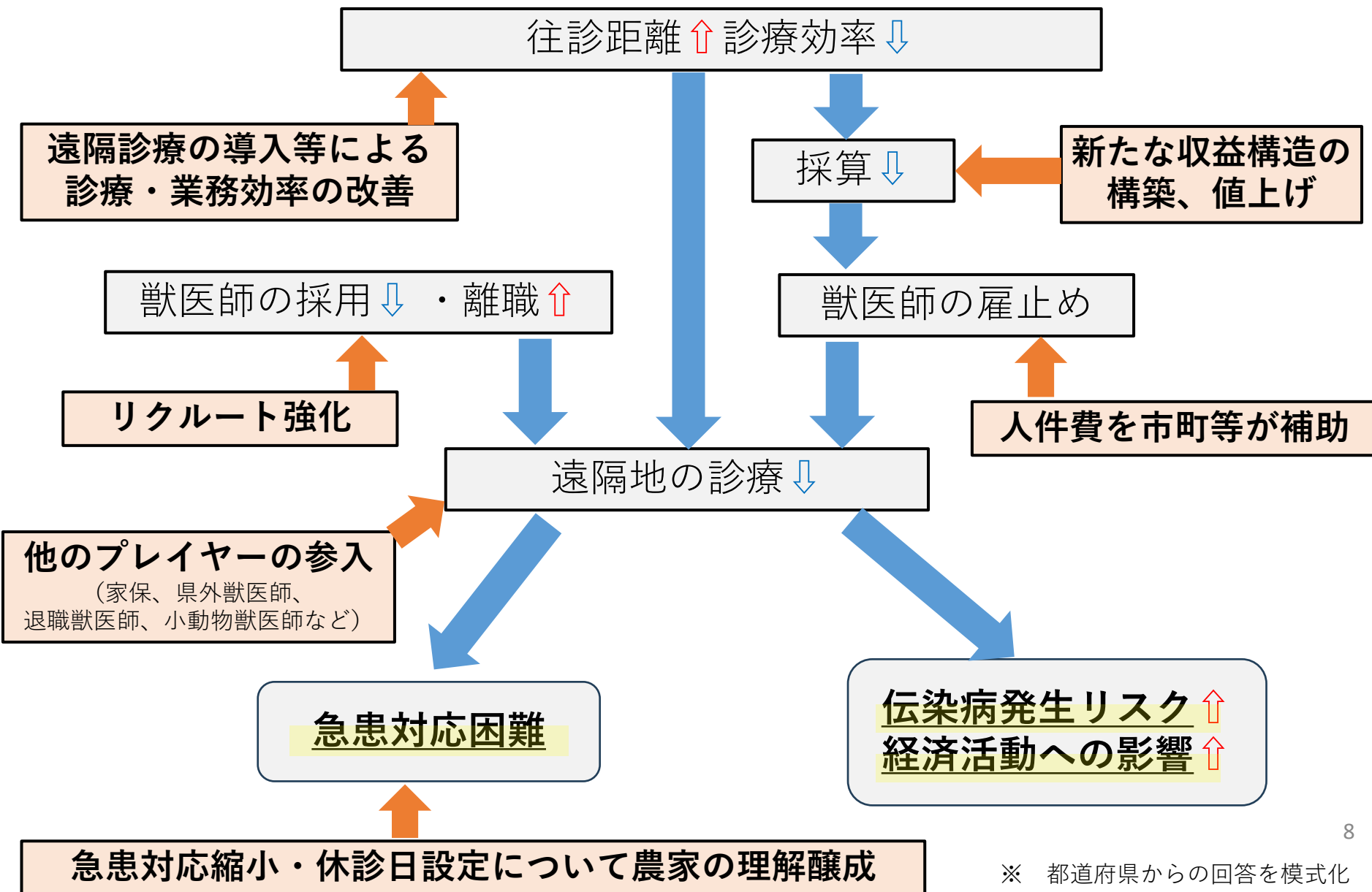
- 高頻度での往診不可または受け入れ困難（7）
- 急患対応が難しい（7）
- 通報や治療が遅れた結果、セリ出荷などに影響が出た（1）

その原因

- 農家の点在化が進み、診療効率低下（13）
- 管内農家廃業により診療所定員、日直人数を減らした（1）
- 診療効率低下により収支が圧迫され、獣医師増員が困難（1）
- 応募者不足による採用困難（3）
- 離職増加（4）

回答を整理すると





家畜衛生公務員獣医師の状況

家畜衛生公務員体制整備に困難を抱える県

公務員

40/45

(未回答 2 都県)

未回答

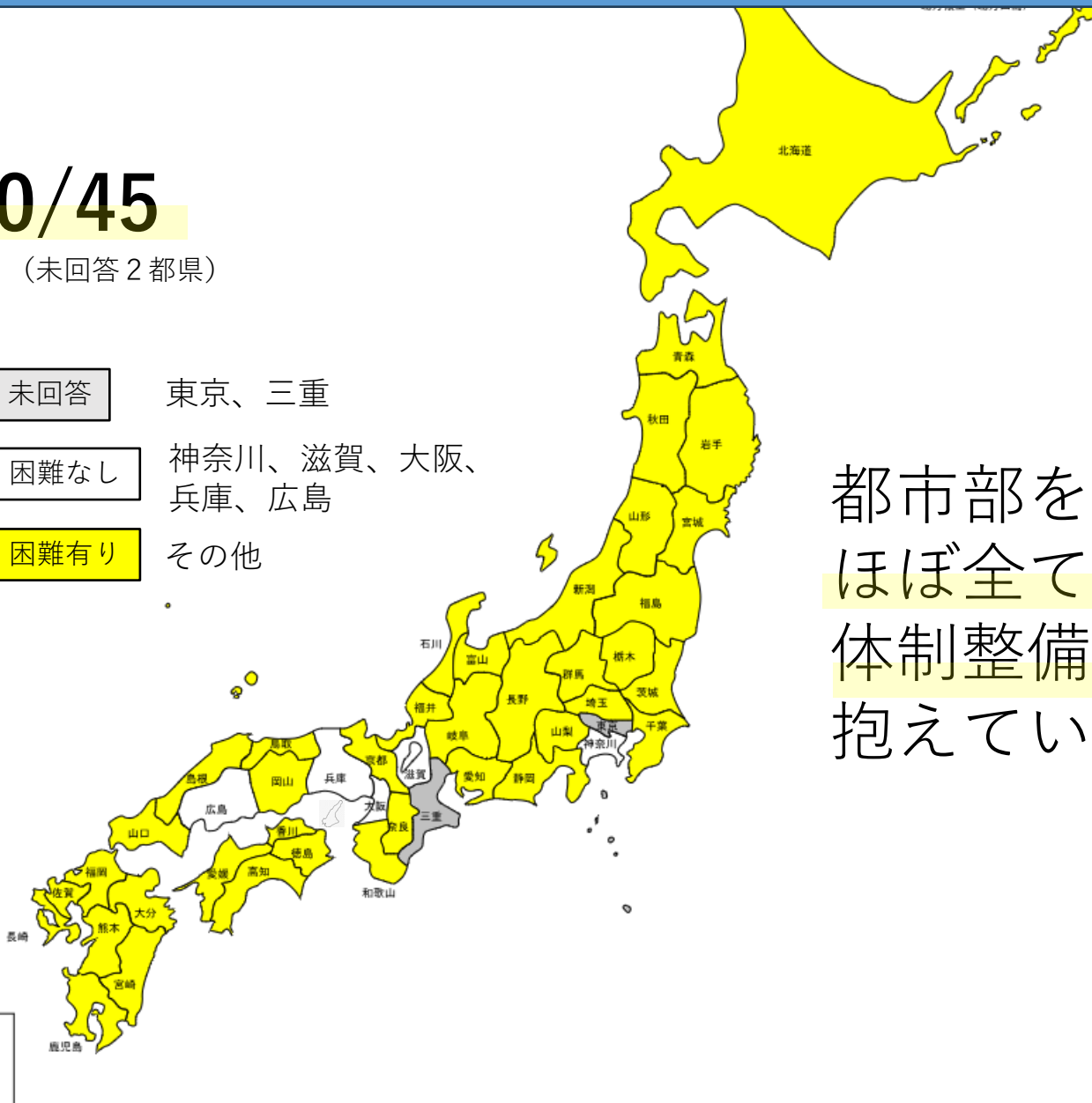
東京、三重

困難なし

神奈川、滋賀、大阪、
兵庫、広島

困難有り

その他



都市部を除き、
ほぼ全ての地域で
体制整備に困難を
抱えている

目標と現状の人数差

(R12年度) (R6年4月時点)

目標2,265人に対し、現状では314人（約14%）少ない

1日の労働時間

平時：8時間15分

(7時間45分～9時間30分)

緊急時：10時間50分

(9時間12分～15時間)

平時でも全国平均で30分超勤している

1日の労働割合

移動2.7割、検査3.5割、指導1.9割、
事務2.5割、その他1.2割

※ 単純平均なので足して10にはならない

主な回答

困難事例

- 地域ニーズに応える生産性向上に関する業務や病性鑑定業務を縮小した（15）
- 生産振興の業務を縮小した結果、仕事の魅力、やりがいが増減した（4）

その原因

- 離職増加・採用減少により人員が不足した（34）
- 家畜伝染病発生予防対策やまん延防止対策等の業務が、平成30年以前と比べて大幅に増加した（13）
- 対前年比で一人当たりの残業時間が3割、休日当番日数が0.5日増加した（18）

回答を整理すると

